三条中

自分を律し、課題に向き合う生徒の育成

～探究的な学習活動を通して～

（２年計画の１年次）

校長　安田　眞理子

１　研究主題について

令和三年度より完全実施された中学校の新学習指導要領では、観点別学習状況の評価における観点が従来の四つから三つになり、その一つとして「主体的に学習に取り組む態度」が登場した。強調されているのは「自ら学習を調整しようとする態度」と「粘り強く学習に取り組む態度」である。

昨年度までの二年間は「自ら課題を見付け、主体的に取り組む生徒の育成」を目標に掲げ、「課題を見付ける力」や「主体性の育成」を目指してきたが、本校生徒は、与えられた課題には取り組むものの「自己管理力」や「課題に向き合う粘り強さ」に欠け、学力の二極化が浮き彫りとなった。

また、改訂の方向性の一つである「カリキュラム・マネジメント」については、「探究」を核として取り組んできたが、未だに教師主導型の課題設定場面が見受けられる。生徒の学習アンケートからも、授業中の反応、発言、質問が少ないといった積極性の低さが課題としてあげられ、学習内容が習得できていないことへの不安感や危機感をもつ自己効力感の低い生徒が増加傾向にあるという実態も浮かび上がってきた。

そこで、今年度は、“学習サイクルを自律により、主体的学びを促す”ために、生徒の実態や発達段階に応じた学習方法・スキルを丁寧に指導し、「やれそうだ」といった課題に対する見方や「分かりたい」といった欲求の側面、やる気が喚起される感情の側面など、動機付けの諸側面を踏まえた学習指導の研究をし、指導力の向上に努めたいと考え本研究主題と副題を設定した。「知・徳・体の調和が取れ、夢や目標に向かってチャレンジする生徒の育成」という学校目標の達成に向け、生徒には学ぶことの意義や進歩・発展することの意味を改めて問いながら取り組んでいきたい。

２　研究のねらい

自ら課題に向き合う生徒を育てるために、一人一人の実態を踏まえ、「学び方」を指導する。探究的な学習を行い、指導法や導入の工夫等をすることによって、授業改善を目指す。

３　研究仮説

生徒一人一人が「学び方」が分かり、探究心をもって課題を設定することにより、主体的に課題解決に向き合うことができる。

４　研究内容

(1) 探究的な学習活動の工夫
(2) 探究意欲を向上させる手立ての工夫
(3) 学び方の指導

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・授業の概要 等
5	18	授業研究（計画訪問）
6	2	小・中ジョイントスクール推進事業:公開授業（三条中）
7	7	授業研究（要請訪問）１学年　総合的な学習の時間「防災教育」 授業者　教諭　夏坂　勝
11	14	授業研究　　１学年　数学「緊急地震速報（比例の利用）」 授業者　教諭　石岡　めぐみ

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要　等
5	13	校内研「指導と評価の一体化について」 講師　日向端　聖　副参事（教育指導課）
7	1	校内研「通常学級における特別な配慮を要する子への手立て」 講師　三浦　祐子　指導主事（こども支援センター）
8	19	校内研　「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの分析・考察①
10	14	校内研　防災訓練・安全教育に関して研修 講師　教諭　夏坂　勝
1	18	校内研　学齢期における聴覚障害児の言語指導について 講師　及川　絵美子　言語聴覚士（みずかわ耳鼻咽喉科医院）
1	19	校内研　「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの分析・考察②
2	15	校内研　今年度の成果と課題、来年度の校内研究に向けて
3	15	校内研　「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの分析・考察③

６　研究の成果

(1) 探究的な学習活動を全教員が意識しながら、生徒の実態に応じた学び方を指導した結果、主体的に課題に向き合おうとする生徒が増えた。今年度は「情報モラル」「大島理森氏～これからの社会と利他の心」「東北フリーブレイズ講演会」「いのちを育む教育アドバイザー講演会」「腰塚勇人氏～命の授業」「看護の出前授業」「防災教育」等、外部講師の講話を多く聞かせることで積極的に地域社会に参画しようとする態度を養うことができた。

(2) 「三条中生の『話し方・聞き方』」については、ジョイントスクール推進事業で小学校と連携しながら進めている。生徒のアンケート結果をもとに学期ごとに課題を明らかにし、教室掲示することで授業に取り組む姿勢が少しずつ改善の方向にある。

(3) スコラ手帳の活用により、自己管理能力を身に付けることができた生徒が増えた。自己肯定感が育まれることで自己効力感が保たれ、学びに向かおうとする姿勢が身に付いた。

７　研究の課題

(1) 「自己管理力」や「課題に向き合う粘り強さ」を伸ばしきれない生徒も多く、学力の二極化が課題として残る。自律的な学習を促すために、家庭学習の習慣を身に付けさせる更なる手立てを考える必要がある。

(2) 総合的な学習の時間や各教科で横断的に「防災教育」に取り組んだが、今年度の取組を継続し、地域社会の連携を強化させることが大切である。他者を尊重し、集団を意識して行動する力、社会における自己の生き方をさらに考えさせたい。

(3) 中学校教育研究会での研修や各種研究大会で学んだことを、全職員で共有する場面が少なかった。情報共有したり伝達したりする場を計画的に設定したい。　　（記入者　関川　玲子）